

平成31(令和元)年度 学校自己評価表

H31.5.10
鳥取県立米子高等学校

| | | | |
|-------------------|--|----------|---|
| 中長期目標 (学校ビジョン) | 生徒の個性・能力の伸長をはかりながら、確かな学力と豊かな人間性の涵養に努め、地域に信頼され地域に貢献する人材を育成する。 | 今年度の重点目標 | 1 確かな学力の育成 2 豊かな人間性の育成 3 自己実現のための進路指導の充実 4 地域との連携による学校づくり 5 業務改善の取組 |
|-------------------|--|----------|---|

| 評価項目 | 現状 | 具体項目 | 具体目標 | 具体方策 | 中間評価 | 評価に対するコメント | 最終評価 |
|-------------------|---|-----------------------|--|--|--|------------|--|
| 1 確かな学力の育成 | アクティブラーニングに関する研修に全教科の教員を派遣するとともに、ICT機器を活用した「学びの文化祭 in Yonago」を開催して、授業改善研究を推進する。 | 学力の向上 | 基礎的な知識および技能の向上 主体的に学習に取り組む態度の育成 | 組織的、計画的に授業改善を推進する | 「学びの文化祭 in Yonago」によるアクティブラーニングの推進と校内推進体制の強化 | | |
| | | | | ICT機器の教員全体の80%活用 | コーチングスキル向上による授業改善の更なる促進 | | |
| | | 思考力、判断力、表現力の更なる向上 | 系列の特色化と資格取得を促進する | 各系列ごとの学校独自事業の充実、特別支援学校との交流 | 高度資格受験者の50%以上の合格 | | |
| | | | | テーマ学習を進化させ課題解決能力を高める | 地域経済分析システム(RESAS)を活用した米子市中心市街地活性化基本計画の構築と地方創生アイデアコンテスト及び高校生ビジネスグランプリへの応募 | | |
| 2 豊かな人間性の育成 | 遅刻者数は年々減少している。届出の徹底を含め、更に規範意識を向上させる必要がある。より一層主体的に活動する意欲を高める必要がある。 | 基本的生活習慣の定着 | 遅刻者数10%減を目指す | 遅刻確認票による遅刻指導の更なる強化 | | | |
| | | | 規範意識の向上と掃除の徹底 | 米子高校生としての自覚を促す行動の啓発(問題行動ゼロ)。SNS対策を中心とする情報リテラシー教育の推進 掃除の徹底と整理・整頓の推進 | | | |
| | | 生徒の主体的活動の推進(国際交流・部活動) | 生徒の各種活動への積極的参加を促す | 生徒会執行部による各種自主的活動の充実 部活指導員・外部指導者の活用による部活指導の充実 アメリカSTA高校への派遣・韓国造形芸術高校への交流派遣と受け入れ | | | |
| | | | 支援が必要な生徒への援助 | 生徒情報を共有し適切なサポートを行う | | | 研修会による情報共有と委員会等による適切な対応 |
| 3 自己実現のための進路指導の充実 | 産業社会と人間・プレテーマ学習・テーマ学習が進路表現に反映されている。 | キャリア教育の発展 | 教員の指導力向上と外部指導者の活用 | 総合的な学習の時間における各種講演会の充実と系統的なキャリア教育の構築 学習成果発表会において他県生徒との連携 | | | |
| | | 進路指導の充実 | 生徒に高い目標を設定させ、希望の進路を実現させる | 教員研修と進路希望検討会を充実させ、高大接続改革推進プロジェクトチームによる大学入試改革への対応 看護系進学希望者の職場体験の実施と進路実現 | | | |
| | | | 文化芸術活動の拠点校として、地域のニーズに積極的に応える | 部活動における各種イベントの開催と参加 学校運営協議会を活用した地域連携の推進 「花壇用草花植栽活動」「イチゴ栽培・収穫」による地域貢献の推進 | | | |
| 4 地域との連携による学校づくり | 地域連携によって学校への信頼、期待が高まっている。 | 積極的な社会参画と情報発信 | 社会につながる教育活動を推進する | 「高校生出前キャリアガイダンス」の拡充 総合美術展の開催による情報発信 | | | |
| | | 5 業務改善の取組 | 長時間勤務者が複数名いる。 時間外勤務を月45時間以下、年間360時間以下を目標とする | 月当たりの時間外業務を平成29年度の15%削減 | | | 掃除の徹底と整理・整頓の推進 米子高校「部活動方針」に基づく適切な運用 業務の効率化と意識改革の推進による時間外勤務の把握と指導 |

評価基準 A: 目的・目標を達成した B: ほぼ計画(予定)どおり推進している C: 取り組みとしてはやや遅れている(取組は進めたが、成果が出ていない) D: 一層の(新たな)取組が必要